

## イルカ

### みんなde歓迎!

イルカ作業所では新たに3名(松田愛里さん、高阪伊織さん、古野八雲さん)の仲間が加わりました。

新しい仲間3名のうち、1名が欠席となってしまうましたが、初日には仕事を始める前に作業所全員で食堂に集まり入所式を行いました。

迎え入れる仲間たちは、先輩として堂々と座り、新しい仲間2名は緊張した様子で座っていました。

イルカ作業所の仲間入りの証として代表者がホワイトボードにはる顔写真のマグネットを贈呈しました。受けとる2名

はドキドキしながらも目は輝いていました!!

今年度は畑の取り組みに力を入れてるので、1名はほぼ毎日畑に出掛けて、種うえや草取りを中心に取り組んでいます。最初は、不安な様子でしたが、今では少し慣れてきて、天気が悪い日でも「畑行こうよ!」と職員の手をひっぱって伝えてくれます。

もう1名は、はしの仕事を日々頑張っ取り組んでいます。はし袋によって厚みの差があり最初は苦戦していましたが、コツをつかんでできています。

これから一緒にたくさんさんの思い出を作っていきますよっね!

## わーくす昭和橋

### 手づくりの花束で歓迎

わーくす昭和橋では、就労継続支援B型に山本真椰さん、生活介護に西川朝陽さんを迎え、ますます事業所内がにぎやかになりました。入所式は、新型コロナウイルスの感染症予防に気を付けながらおこないました。式では、みんなで歓迎の歌を贈ったり、各グループで自分たちの仕事を紹介したりしました。仲間の会の役員が司会を担

当して、手づくりの花束を渡しました。新しい仲間はあいさつや自己紹介を立派におこないました。みんなが大活躍して、楽しく新しい仲間を迎えることができました。

新しい仲間が、慣れない環境の中で毎日仕事に取り組む姿をみていると私達も励まされます。新型コロナウイルスの影響で心配がつづきますが、仲間、家族、職員が一丸となつてのりこえていけるよう頑張っていきます。

## 《2020年度職員人事のお知らせ》

【新たな役職者の任命】

- ・みなとホーム(男性) 稲垣順平 (所長・複数体制)
- ・あしたの家 坪谷雄介 (副所長)
- ・ネットワークみなと 川又宏樹 (副所長)
- ・うろじの家 村田明子 (主任支援員)
- ・わーくす昭和橋 木下穂波 (主任支援員)
- ・わーくす昭和橋 坪谷昌子 (主任支援員)
- ・しおかぜ作業所 北村 圭 (副主任支援員)

## 《寄付お礼》

- ・株式会社ひとり様  
(世界の山ちゃん東岡崎駅前店)
- ・愛知機械工業株式会社工長会様

※2019年11月～2020年3月までにご寄付頂いた方々のお名前を掲載させて頂きました。(法人職員、家族、関係者等を除く)ありがとうございました。

※引き続き、ご支援賜りますよう宜しくお願い致します。

※なお、みなと福祉会は名古屋市に「租税特別措置法による税額控除に係る証明」、「個人の市民税における寄附金税額控除の対象となる寄附金の指定」を受けています。



2020年2月2日(日)  
愛知機械工業株式会社工長会様

## 編集後記

「青葉号」いかがでしたでしょうか。

今、日本をはじめ地球上が未曾有の危機に直面し、人々が協力しあってウィルスに立ち向かっています。

みなさんも「緊急事態宣言」が発令され、ステイホームで1ヵ月が経ちますが、家族との絆が深まっているのではないのでしょうか。

3月2日から学校が休校になり、さざなみを利用している子どもたちも長い長い春休みを過ごしています。最初のうちは、学校が休みになったことで楽しく過ごしていましたが、1日が過ぎ、1週間が過ぎ・・・今では、水族館や科学館など外出することもできずつまらなそうにしています。

楽しみにしていた小学校や中学校の入学式も1日学校に行っただけで休みになってしまい、新しいお友達とも会えずに寂しい思いをしています。

そんな子どもたちのためにも、今、大人が頑張らないといけない毎日だと思います。先の見えない毎日ですが、「歴史上終わりのない戦いは無い」と、私の好きな歴史学者の先生もおっしゃっていました。

みなさんと協力しあって乗り越え、笑顔あふれる日々を1日でも早く取り戻しましょう。

(佐藤元城)



## 今、思うこと

港区障害者(児)とともに育つ会 会長 磯崎明美

今年の春、あつという間に過ぎたというか、来たのだろうかと思う様な気がする。春と言えば、まずつくしが芽吹き、つくし摘みに家族と出掛け、その土手には桜が咲き誇り、菜の花がすでに遅しと満開の花びらを広げている。

そんな風景を毎年、目にしてきた。78歳ガンで逝った姉が、2月の初めに「桜が見れるだろうか？」と病室でつぶやいた。余命1カ月ない事を知っていた私は、そつと病室を抜け出して、涙を流した。

そんな時、新日本婦人の会・県本部の「新春のつどい」が開催され、来賓で招待され、帰りに河津桜の堅い蕾の枝を、役員の方から頂いた。その1本の河津桜を家に持ち帰り、ストーブで部屋をガンガンに暖め、3日目に桜の花びらが開いた時、私はすぐに瀬戸で入院している姉の所へ、私が大切にしていた花瓶に挿して、持って行った。病室で姉が「桜が咲いた」と何度も何度も花瓶を持って、花を眺めていた。

その1週間後に姉は逝った。墓石には甥と、姪が、桜が大好きだった姉のために、大きな桜の花が彫ってあった。

これ程までに私たち日本人は、桜の花を愛し

続け、春は桜という代名詞がつく程なのに、ゆつくり花見も出来なかったこの春。外出規制の「緊急事態宣言」が出され、毎日外出できない、会議も出来ない、息苦しい毎日、衛生製品の品不足に不安に怯え、医療の従事者不足に国のリーダーの訴え。私たちは今、彼等を毎日テレビで見て、何故か私たちが、これまで運動をしてきたことを、目の当たりにしている気がします。

大小の違いは、あるかも知れない。全世界、日本国中という大きなもの。しかし私たち障害者児の家族は、これまでどれ程、国、行政へ医療体制、医薬品や補助具、福祉の人手不足を訴えてきたことが。それが足りないが為に亡くなっ

ていく障害者の長い長い運動。それらが不足しているが為に、目の前で愛しい我が子が亡くなっていく、又は悲しいことに我が子を殺したり、共に死を選んでしまった家族。

私たちは幾多の悲しみを乗り越えてきた。今、直面している医療の問題、避難所、ボランティアの体制、障害者団体が訴え続けてきたことが、「新型コロナ」で叫ばれている。医療関係者の家族への差別の報道を聞いた時、私たち障害者や家族関係者が受けてきた差別を感じ、憤りすら覚える。

私たちは、これまで「小さな虫も踏まれれば立ち向かう」が如き一丸となって、家族関係者と団結し、「わーくす大海」と名付けた小規模作業所の様に、「魚は大海も勇猛に進む。人間も広いこの世界に勇猛に進むべし」と突き進んできた。しかしこの間、多くの人々の協力も忘れてはならない。

日本の自然が大好きと言って、4月亡くなったC・W・ニコルさんが「大きな災害、大きな自然に向き合うからこそ、私たちは繋がり合い、生きる刻を共にして活動しなければならぬ」と、今それぞれが心一つにして、色んな意味でたたかう時だと思っ。



20回目になる港区との懇談会



愛知母親大会にて 1000人の入場者の前で障害者の実情の訴え